

学科名	電気通信工学科							
科目名	電子回路 I 演習(再履修、集中講義)							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 必修科目(情報システムコース)							
担当者	江崎 秀							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイオード、バイポーラトランジスタ(BPT)、FETの基本特性を理解し、近似できる。 ・ダイオードを用いた整流回路を覚え、解析することができる。 ・BPTの動作のしくみを理解し、バイアス回路の適切な設計指針を覚える。 ・基本的なBPTエミッタ接地増幅回路を覚え、直流回路と交流回路に分離できる。 ・BPTの小信号等価回路を覚え、エミッタ接地回路を小信号等価回路で表現できる。 							
日程と内容	7/30 小テスト① 7/30 小テスト② 7/30 小テスト③ 7/31 午前① 7/31 午前② 7/31 午後① 7/31 午後② 7/31 午後③ 8/1 午前① 8/1 午前② 8/1 午後① 8/1 午後② 8/3 電子回路 I 定期試験 8/3 電子回路 I 演習定期試験							
成績評価基準	定期試験	90%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	10%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイオード、バイポーラトランジスタ(BPT)、FETの基本特性を理解し、近似できる。:達成した ・ダイオードを用いた整流回路を覚え、解析することができる。:達成した ・BPTの動作のしくみを理解し、バイアス回路の適切な設計指針を覚える。:達成した ・基本的なBPTエミッタ接地増幅回路を覚え、直流回路と交流回路に分離できる。:達成した ・BPTの小信号等価回路を覚え、エミッタ接地回路を小信号等価回路で表現できる。:達成した 							
反省点	再履修生専用の集中講義である。学期修了後、集中的に「問題を解くこと」に集中して授業を組み立てたことと、不合格になれば留年が確定することから、合格率は高かった。前提条件としてWebの小テストと課題を予め与えたが、準備を怠って不合格になった学生がいた。事前の準備を徹底させる工夫が十分でなかった。							
来年度の計画	今年度の2年生向け授業は不合格者が一桁になったので、来年度はよりきめ細かい授業が可能になると思われる。集中講義なので、特に事前の準備を徹底させたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	10点総合評価で平均8.6点だった。これは、集中講義としたことと合格しなければ留年という緊張感により授業が充実した結果と思われる。							
履修登録者数	16名	定期試験受験者数	14名	合格者数	13名	合格率	93%	